

平成28年度東大阪大学柏原高等学校 学校評価

1 めざす学校像

学園訓の具現化を図り、知力の充実と豊かな心を育む人間教育を推進し、社会に有為な人材を育成する。また、時代の要請を常に把握し、全学園教職員の力を結集して、地域社会から必要とされる総合学園をめざす。建学の精神を堅持しつつ、進学を目指す生徒、就職を希望する生徒等、多様な生徒に対応する教育を推進し、生徒が学業やスポーツに励み、生き生きと活動する魅力ある学校をめざす。また、卒業生が誇りに思える学校、中学生が多数志望する学校、保護者が通わせたいと思う学校、地域に親しまれ愛される学校づくりに取り組む。

① 伸びしろのある生徒を多数受け入れて学力の向上を図り、進学・就職の実績をアピールできる学校
② 自己表現力、コミュニケーション力等の苦手な生徒が、安定した学習環境と充実した教育相談体制の中で生き生きと生活できる学校
③ 凡事徹底を推進し、生徒の生活規律を確立させて多様な進路実現を可能とする学校
④ スポーツに秀でた生徒を鍛え上げ、全国大会出場等の優れた競技実績を上げる学校
⑤ 学校活性化の志を強く持ち、生徒を愛し、生徒と向き合い、家庭とも連携してとことん面倒を見ていく教職員集団が形成されている学校

2 中期的目標

1 学力向上とキャリア教育の深化・充実

- (1) 教科会議の定例化と指導方法の研究推進
- (2) わかる授業を目指した公開授業・授業公開、さらには授業研究会の確立
- (3) 総合的な学習の時間を活用した「進路研究」でのキャリア教育の推進
- (4) 生徒の学力実態と興味関心を踏まえた多様な進路実現が可能なカリキュラムの研究
- (5) 放課後学習や補充学習等の実践

2 自己肯定感の育成と凡事徹底の推進

- (1) 生徒が集中して学べる学習環境の整備
- (2) 生徒の主体的な活動を育成するための生徒会活動の活性化
- (3) 学級経営を充実させ、学級集団の育成を図る
- (4) 挨拶、身だしなみ、頭髪、時間の厳守等の「凡事徹底」
- (5) 問題事象への迅速な対応と外部機関等との連携の強化
- (6) 生徒の実態のきめ細かな把握と転退学者「0」に
- (7) 相談機能の充実
- (8) 強化部の一層の飛躍と強化部以外の部活動の活性化

3 学校の活性化と指導力等教員の資質の向上

- (1) 課題に応じた校内研修会の充実
- (2) 人事交流の促進
- (3) 地域との連携の強化
- (4) 外部人材の活用

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析	学校評価委員会からの意見
<p>○生徒 学校生活が楽しいと感じている生徒は学年が上がるにつれて、高い数値を示している。そんな中で、目的意識を持って学校生活を送っている生徒が6割をはるかに超し、3学年は7割に近い。また、7割近くが進路指導が充実していると評価している。生徒への教師による評価の仕方が7割以上理解されており、全学年の8割以上がテストだけでなく総合的に評価されていると感じている。生活指導が十分に行われていることを肯定的にとらえ、生徒自身も校則を守っていると8割以上が答えている。</p> <p>授業の内容に対する理解や取り組みに対しても半数以上が肯定的な評価になっている。また、施設等の教育環境は新校舎完成に伴い更に期待を抱いている。</p> <p>○保護者 入学して楽しくすごしていると保護者の8割以上が感じ、きめ細やかな指導や面倒見の良さに対する評価も高い。また、部活動が活発であることの評価も高い。授業が分かりやすいか、意欲的に授業に取り組んでいるのかということに関しては大いに興味を持っている保護者が多い。</p> <p>○教職員 学校運営方針に基づき、教育活動を展開している。また、教育目標達成に努めているという回答は8割以上。授業内容の目標を明確にしているという回答は9割以上で、教材研究を十分に行っていると8割以上の回答がある。</p> <p>授業の進め方では、PDCAサイクルによる実践やグループ学習や参加型学習などのアクティブラーニングが実践されているのは徐々に増してきている。生徒指導の方針を共通理解し、指導しているという回答は5割以上である。</p> <p>【分析】 新校舎が完成し、教育環境が変わり、学習面はじめあらゆる面において多大な成果を上げる必要がある。生徒は学校生活に対して満足をしているが、楽しい学校生活という意味で、目的意識を持つ生徒も多いので、学習指導において生徒がもっと積極的に参加できる授業を望んでいる。保護者の本校教育活動に対する信頼が厚く、さらに家庭との連携・協力が不可欠である。また、学校生活をさらに分かりやすくするために、今まで以上に発進力を高めなければならない。</p> <p>あらゆることで教員間の共通理解を深め、さらに教育向上に努めるべきである。学習指導において、指導する側は教材研究等、授業理解のための準備をして、生徒の参加型授業にしていく。教科会議の定着化、校内研修等の実施で、よりよい方向にすすんでおり、さらに日々の研鑽や教員間の協力体制強化で発展させる必要がある。</p>	<p>学校評価委員会からの意見</p> <p>評価委員： 学識経験者(市内在住) 保護者代表(後援会会長) 元後援会役員代表 同窓会代表</p> <p>○生徒の学校での「生活や特色」(校風)、そして「進路」に向けた受け止めや取り組み、そして進路等への自覚は、至って良好で、例年7～8割の生徒は前向きであり、特に2年生の「進路」指導への信頼は、1回、2回の調査では比較的に高い傾向にある。</p> <p>○学習への取り組みの雰囲気は極めて良好であることが伺える。基礎力を必要とする生徒が多いが、1年から2年に向けて前向きな努力が顕著である。本来2年生はなかだみになりがちであるが、「真面目な学習への取り組み」により前年度より肯定的評価が高くなっている。</p> <p>○特に相談相手としては先生よりは“友人”にウェイトがおかれている。当然のことと思われるが、やはり指導上の配慮として、より良い人間関係(友人関係)の形成の在り方に、今後学校としても一つの注目点であろう。</p> <p>○先生は自分の良いところを認めてくれますかについては、7割超が肯定しており、これは担任への信頼が大きいといえる。不断の指導の成果ではないだろうか。</p> <p>○本校の長所は、生徒の興味・関心を引き出すようキャリア教育を実践している点である。大学・専門学校、その道のプロや企業の人から話を聞いたり体験できることは、他校にはあまりないことである。約半数が大学に進学する一方、就職難の中、内定率が約100%を維持している。就職に強い柏高と言われる所以であり、面倒見の良い教員のきめ細かな指導のお陰である。進路指導への肯定的評価は高率で、学校の指導に対し生徒(保護者)の期待は大きい。</p> <p>○立派な校舎・教室が出来、2学期から新しい環境での学習に変化したのだが、意外にも生徒の反応は以前と変わらず例年同様の回答が得られた。特に1年間不便を感じたはずの2年生でも同様であり、男子校らしい感想であろうか。</p> <p>○本校の部活動が活発であることは、自他共に認めている生徒が大半である。全国的に優秀な戦績をあげる部活への信頼と、その学校に在籍していることには、肯定的な面がうかがえる。</p> <p>○生活(指導)面では、9割近くの生徒が、校則を守り、規律の在り方に理解がある。</p> <p>○多くの生徒が自分を見据える活動に変わっている。7割の生徒が確り考え、取り組んでおり、本校が設定した選択科目を肯定している。ただし「選択」の必要性・学習の大切さを自覚させる方策も課題だと思われる。</p> <p>○平成27年度調査との比較では大きな変化がない。本校の教育活動が着実に展開されている証を感じる。改善の余地はあるが折角の取組が後退しないよう、すべての分野において前進あるのみ。今まで学校独自に考えられてきた教育事業は時代とともに大きく変化してきた。公教育として全てがガラス張りであり、従来と違ったアピールの方法が一層求められる。目標を作れば必ず結果を求められる。どのような成果があったのか、生産活動のように数字は出せないが、目標に対する成果のパロメーターの一つが、今実施されている生徒の意識調査である。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力向上とキャリア教育の深化・充実	(1) 授業の質的向上			
	ア) 授業の質的向上のための研究推進体制の確立 イ) 教員間で研鑽し合う体制づくり ウ) 学び直しの時間充実	ア) 教科会議を定例化し、指導方法や指導内容の交流や情報交換等を行い授業の質を高める実践を行う。 イ) 改革推進部が中心になり、授業公開や公開授業期間の設定を行い、授業を通じた教員間の交流を進める。参観して気づいた点などは、参観カードを作成し授業者に渡す。 ウ) 放課後学習の場(真-Navi Room)や「国」「数」「英」における基礎学力を学ぶ時間の設定を行う。	ア) 自己診断における教科指導や授業に係る項目 イ) 実施授業公開などでの参加者数及び自己診断の授業に関する項目の実績 ウ) 自己診断における放課後学習の場の活用項目	ア) 教科会議の定例化で、教科内での打合せがしやすくなり効果を上げている。進度の調整だけでなく、指導方法や内容等の研修をしている教科もある。 イ) 昨年度引き続き授業公開期間や全教科に取り組んだ。授業者や参観者双方にとって力量の向上につながっている。また、保護者の授業参観を2回実施した。保護者からは早い時期の実施要望があった。 ウ) 「真-Navi Room」の活用は第1学年が主として利用し、学習している。
	(2) 多様な進路選択への対応			
ア) 進路未定者「0」を目指す イ) 就職内定率100%の継続を目指す。 ウ) 進路を見据えた選択科目の充実と研究	ア) 進路指導部と学年との十分連携・情報交換を強化する中で、一人一人の生徒の状況を把握し、共通理解を図り、計画的系統的な進路指導を行う。 イ) 企業や事業所とのつながりを維持しつつ、生徒の興味関心も把握し、コディネーターを活用し、内定に至るまで指導を徹底する。 ウ) 選択科目開設3年目。関連科目をまとめ専門的に学ぶ系列化に取り組み、H29年度以降の進路につながる選択科目について研究を継続する。	ア) H28年度進路状況の実績 イ) H28年度就職内定状況実績 ウ) 自己診断の評価結果	ア) 大学(短大含む)進学 126名 専門学校進学 78名 就職(縁故・自営含む) 61名 公務員(警察官) 1名 (H29.4.1末現在) イ) 学校紹介の就職希望者は53名(47企業) 内定率100.0% (H29.4.1末現在) ウ) 系列化と個別の講座選択との併用を行い、系列化全面实施の足がかりとなった。	
2 自己肯定感の育成と凡事徹底の推進	(1) 自己肯定感の育成			
	ア) 生徒が活躍できる場の設定 イ) キャリアアシストコースの充実 ウ) 退学者の「減少」	ア) 生徒会活動の活性化 生徒会が主体になった柏高祭(文化祭)の開催 学校説明会等での生徒会はじめ有志の生徒の協力、発表の場面の設定 宮滝(吉野)での野外活動及び集団活動による仲間づくりの実践 イ) 生徒サポート部の充実を図り、支援を必要とする生徒の状況把握と共通理解に努める。カウンセラー等、教育相談室との連携強化を図る。 ウ) 生徒へ状況のきめ細かな把握と家庭との連携強化を図り、転退学者を減少させる。	ア) 自己診断の評価結果 イ) アシストコースの自己診断項目の評価結果 ウ) 退学者数の推移 39人→40人	ア) 柏高祭では、新校舎建設で場所が限られている中、生徒会が中心になり有志の生徒も含め企画運営をしており、金券の処理もトラブルなく終えていた。 イ) 自己診断から、約7割の生徒が学校に来るのが楽しいと回答している。中学校時に不登校であった生徒も多数在籍しているが、クラスの様子や自己診断から学校での生き生きとした姿が見られる。進路を考えて生活している生徒も8割を超える状況である。 ウ) 1名増加した。様々な理由で転退学生が出ているが、意欲を持たせる実践を通して退学者の減少をめざす。
	(2) 凡事徹底の推進と学習環境の整備			
ア) 挨拶、時間の厳守等の凡事徹底 イ) 問題行動への迅速な対応と古い生活指導からの脱却 ウ) 静謐な学習環境の確立	ア) 登校時の立哨指導及び通学路指導の徹底 生徒への声かけ イ) 受容と傾聴という姿勢での生徒への対応に心掛ける。また、学年会議や補導会議で家庭環境も含めた生徒の状況把握をし、生徒理解に努める ウ) 空き時間の教員による校内巡回を含め、静謐な学習環境整備のため、指導に乗らない生徒への丁寧な対応を行う。	ア) 外来者の評価・自己診断の該当項目評価結果	ア) 自己診断の当該項目では70%~80%の生徒が肯定的に評価している。来校者からは、「よく挨拶をしますね」と褒めていただくこともしばしば。スポーツコース生が中心であるが、他の生徒にも定着しつつある。 イ) 空き時間を利用しての校内巡回に努めている。	
3 学校の活性化と指導力等教員の資質の向上	(1) 校内研修の充実			
	ア) 各部等分掌の課題に則した校内研修の実施 イ) 授業を中心にした研修会の実施	ア) 「人権教育」「サポート部」「改革推進部」「入試広報部」等、月曜日に設定の校内研修で計画的に実施 イ) 各教科による公開授業研究会の実施	ア) 実施回数、研修内容 イ) 実施回数、研修内容	ア) 新たな内容の研修(選択授業の状況、発達障害のある生徒の就労支援、作文の書き方指導、基礎力診断テスト活用方法)が計画的、先進的に実施でき、教員の資質の向上につながっている。 イ) 全教科で公開授業が実施され、指導法や生徒の様子等、参観カードや教科会議等で、研究・交流することができた。また、授業公開期間を設定することにより、幅広く授業参観ができ、教員間の交流がより深まり成果があった。授業研究会や事例研修の実施が今後の課題となる。
	(2) 外部人材の活用と地域連携			
ア) 専門学校や大学、企業等との連携と活用 イ) 教育活動への外部の人材活用 ウ) 柏原市・八尾市、自治会との連携	ア) 進学ガイダンスや大学・専門学校・企業見学会等の実施 イ) 部活以外の教育活動への人材活用や選択科目・各教科の授業等への専門性の配置 ウ) 地域連携の分掌を設け、市や商工会、自治会との積極的な連携を図る	ア) キャリア教育にかかる自己診断結果と実施内容 イ) 人材活用状況 ウ) 市や商工会等実行委員会主催行事参加状況	ア) キャリア教育の一環として実施。多数来校有。 イ) 第1学年の総合的な学習の時間、新1・2学年選択科目スポーツコース「進路研究」に外部の講師を招聘し、専門的な講話の実施。 ウ) 市民総合フェスティバルへの生徒会や部員の参加、地元中学生を文化祭へ招待する等、地元柏原市との連携を推進している。	